

悠久の調べが響く

山本 廣美

滋賀県

滋賀の琵琶湖は、バイカル湖などに次ぐ世界第3位の古代湖として有名。起源は400万年～600万年前にもさかのぼる。生命の源の水を営々と与え続けてくれる「マザーレイク」の名にふさわしい。

山本廣美さんは全通研滋賀支部長であり、手話通訳、手話講師、盲ろう通訳・介助などを担う多忙な方です。今日も滋賀支部三役会議で、議題を関東弁でテンポよく次々と進めていく。

その姿は、見事で、爽快な気分になる。

表紙：
近江富士(三上山)を借景
に近江富士花緑公園にて





「おひさまサロン」での朝の体操



「ことばあそび」をテーマに交流



東京出身の山本さんが手話と出会ったのは、21歳のころ、多摩市主催の手話講座に始まる。その時の講師が、現在の「たましろの郷」の施設長である花田克彦氏で、とてもインパクトの強い出会いだった。その後、手話との関わりは途切れたものの、これからの人生に成すべきことを考えた結果、今に至った。



保健師による「口からはじまる健康づくり」の学習



みんなで昼食の焼きそば作り

高齢聴覚障害者支援事業の「おひさまサロン」は、野洲市聴覚障害者協会の有志と支援団体の有資格者で自主運営している。地域のろう者のことを、「生涯ずっとおつき合いしていく人々」と表現する山本さん。常に人生を共に歩む姿勢で、ろう者とながっている。山本さんは、接する人たちの趣味やクセ、心の微妙な変化、環境の変化、健康のこと、今求めていることなどを細かに感じとって、受け止めていく。手話活動以外では、海外から来る人々との交流の場「野洲市国際協会」で日本語指導をされている。多彩な交流には驚かされる。





山本さん・ゆきさん・さきちゃん

今、山本さんの中での大きな存在はお孫さんの、さきちゃん。

これからの時代をつくっていく、未来への使者として、大きな希望になっている。

琵琶湖の長い歴史は脈々と続いていく。

オレンジに染まる朝日の湖面に始まり、夕照に終わる。静かなさざ波で暮れる「マザーレイク」の1日が今日も終えた。未来への息吹を込めながら…。

写真/文 松本 博